



4月10日 ヨシ笛コンサート

奏者紹介

時間:午前11:00~13:0

0 入場無料

菊井 了(きくいさとる) 近江八幡市在住(ヨシ笛奏者)

先に琵琶湖の粘土で瓦の楽器をつくったことに続いて、1998年秋に「西の湖」の葦を材料に音楽の奏でられる新式のヨシ笛を考案。自ら演奏をつとめる傍ら、守山と近江八幡に「琵琶湖ヨシ笛アンサンブル」が結成され演奏技術を指導。琵琶湖の自然保護と葦の役割を啓発しながらヨシ笛とヨシ笛の音楽の普及に注力する。

近藤ゆみ子(こんどうゆみこ) 安土町在住(ヨシ笛シンセサイザー・ピアノ奏者)

3年前、ヨシ笛の音色と味の深さに魅せられ、ヨシ笛の誕生と同時にヨシ笛シンセサイザー奏者をつとめる。ヨシ笛音楽と演奏の独自手法を奏者と共同研究しながら、作曲も手がけヨシ笛音楽の魅力や演奏の幅を拡げ、奏者と共に各地で普及啓発のためのコンサート活動を行う。

ヨシ笛の誕生(ヨシ笛ってどうしてできたの?)

奏者が琵琶湖畔に自生する葦で楽器を作ろうと考え、1998年日本で始めて西の湖産の葦笛が近江八幡に出現した。製作のきっかけは、奏者が先に粘土(瓦)の楽器『瓦奏琴』をヨシ笛の前に考案した。その後、共に演奏できるベアの楽器を求め、葦に着目したのが製作の始まりである。古琵琶湖層の粘土(瓦の原料)も自生する葦も琵琶湖のかけがえのない大変貴重な自然素材であり、世界的に悪化が懸念される環境への関心が高まる中、琵琶湖の水や野鳥・植物などの自然保護を考えるタイムリーな啓発素材となっている。

葦の用途は、屋根・松明・葦紙・漢方薬・簾や障子・室内調度品などがあるが、用途の限定と使用量が減少気味なことから、その他の用途について10数年前から考えていた。葦は大変細くもろいが、筒状の特徴はきっと何かに活かせると考え、試行錯誤の末、素朴で澄んだ音色と音階を安定・継続して出すことに成功した。地球上には自然や地域に発祥する土着の様々な民俗楽器が非常に多く存在するが、琵琶湖の地域性と自然を重視するこだわりと昔なつかしい麦藁・タンポポなど幼い時の素朴な発想から、自然の素朴さと美しさを失わない琵琶湖ならではの楽器が完成した。

素朴さとアルファ音、癒しの自然音あふれる音色を多くの人々に親しんでもらうことで琵琶湖の大切な「葦」への関心を高め、水環境の保全や地域文化の一つ、また高揚のための役割を果たせることを願っている。

このヨシ笛は、琵琶湖「西の湖」にこだわり、楽器用に葦を選りすぐっている。葦笛は、空気を吹き込むだけで誰でも簡単に音は出せるが、小指ほどの非常に細い植物だけに音量・音質・音程の三拍子を揃え、安定した演奏をするにはややコツがいる。

素朴な割には他の民族楽器の群を抜き、音域は最大約2オクターブ出すことが可能。思い出の曲から小クラシック音楽までモチーフや選曲の幅も大きい。音質は、植物性のアルファ・クリスタル音に近く、そよ風のサラサラしたささやきや溪流のせせらぎをイメージできる癒し系に属し、特に自然の原風景に溶け込むような音色は、人々の心を引きつける。

場所JR南彦根駅前南へ徒歩1分 ビバシティ 2階ホール 連絡090-9286-3961

NGOモニティ 栗本